

MMU SHiP

宮崎公立大学の今を伝える

エムエムユー
シップ

vol.11

2017. March

特集 1

教室だけが、 学びの場じゃない！

特集 2

What Brings you to MMU?

学生記者企画

Be a fashionista

KYO-SHiP

世界へ漕ぎ出せ！視界よっ！

@MIYAZAKI

CIRCLE DE GOSHIP

連続リレーエッセイ いいだしっぺ

MMU NEWS PLUS

未来の compass



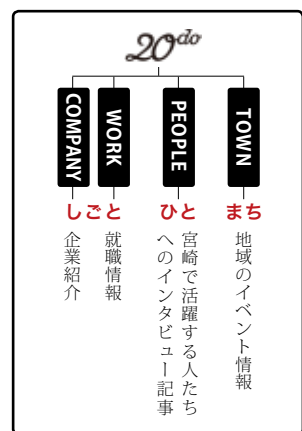
MMU LIBERAL ARTS

宮崎公立大学広報誌『MMU SHiP vol.11』は、MMUの学生と職員が企画・取材・執筆・デザインを行いました。

宮崎に生まれ、宮崎で育った若者にこそ、
宮崎が持つ本当の魅力を伝えたい。

20do 担当 寺原 誠一さん

宮崎市商業労政課 課長補佐 / 宮崎県出身



●20doの目的とは
20doは、宮崎で生まれ育つ若者の県内就職率を上げるための取組みの一環として実施されています。本県は、新規学卒者の県内就職率が全国平均よりずっと低く、高卒者に至っては全国ワースト1位です。宮崎にもいい就職先は多くあるし、通勤時間の短かさや、自然にあふれた中での暮らしといった、ワーク・ライフ・バランスの点から考えれば、都会に勝るとも劣りません。しかし、若者に対して、それらを効果的に伝えられていない状況にありました。そこで、少しでも多くの若者が興味を持ってくれるような情報発信方法を検討した結果、現在のようになりまし。

●事業の概要について
20doでは「まち・ひと・しごと」の3つを基本として、様々なコンテンツを展開しています（左図参照）。これらは、20do



●宮崎の若者に向けたメッセージ
宮崎には、環境、人、食べ物など、都会よりも優れているところがたくさんあります。宮崎の若者に向けたメッセージは、宮崎には、環境、人、食べ物など、都会よりも優れているところがたくさんあります。

●20doの今後について
20doは、スタートして間もないこともあり、その効果に関しては今後検証していくことになると思います。しかし、現時点までの状況を見ると、認知度や活用状況はいい感じで伸びてきているようです。今後、これらをより向上させていくためには、学生だけにアプローチしていくのではなく、保護者や学校の先生なども巻き込んでいく必要があると感じています。また、ウェブサイトをアプリについても、現状維持にとどまらず、新しいコンテンツをリリースしたり、さらに魅力的な情報を提供したりすることが必要だと感じています。

専用ウェブサイトのほか、スマートフォンアプリ（以下、アプリ）でも見ることができます。宮崎の情報に特化した20doだからこそ掲載できる、内容の濃い記事がたくさんありますので、年齢問わず多くの方々にご覧いただきたいですね。なお、アプリでは、宮崎市内で実施される成人式の出欠管理や情報配信等もできるようになっており、今年度から実際に活用されました。

『20do』について詳しく知るには…

マガジン版『20do』

宮崎で活躍する人へのインタビュー記事やマンガなどを掲載。

アプリ版『20do』

続々アップされる最新情報がいつでもスマホでチェックできる便利なアプリです。もちろん利用は無料！

記事：尾崎 穂波 / 2年



みやざきアートセンターで開催されたYUMEZAKI FESTIVALと20doの合同による成人式イベント「20do.FES@MIYAZAKI」の様子。

高等教育における「アクティブ・ラーニング（能動的学修）」の重要性が叫ばれて久しい。「アクティブ・ラーニング」とは、「一方向性による知識伝達型の学修方法ではなく、学修者が能動的に学修する方法やそのプロセス」のこと。これらにより、学修者の問題解決能力、批判的思考力（クリティカルシンキング）、コミュニケーション能力といった汎用的な能力の育成を図ることが期待されている（※）。もちろん、MMUも「アクティブ・ラーニング」には取り組んでいる。だが、我々が提供する講義の範囲を飛び越えて、さらにさらに、「アクティブ」な彼ら／彼女たちは、街へ繰り出し、「ラーニング（学修）」しているのだ。

そんなアクティブな本学の学生たちが、最近、『20do（にじゅうど）』という活動に参加しているとの噂を耳にした。20doとは、平成28年の春から宮崎市が提供を開始したサービスで、宮崎の「まち・ひと・しごと」に関する情報を発信するワケモン（宮崎弁で「若者」の意味。）向けメディアのことである。地方自治体の多くは、ごく一部を除き、ワケモンの都会流出が止まらないことが大きな問題となっており、宮崎市も例にもれずその影響を受けている。そこで、このままではいけないと立ち上がった宮崎市は、同市の将来を担うワケモン世代へ、新たな時代を創生してもらえよう、エールをこめて、スマホアプリやマガジンで宮崎の魅力ある情報を配信しようと20doを始めたわけだ。

その活動の中心に目を向けると、各コンテンツにはたくさんの若者が携わっているのがわかる。その中には、確かに我らがMMUの学生も複数名含まれていた。



イベントが始まるやいなや、ぞくぞくと観客が集まってくる。



1月の凍える寒さの中、入念にリハーサルを行うMC。（右側が本学の学生）

「ダイガク」や「オトナ」から言われたわけではなく、学生たちが自ら「20do」に関わろうとするのはなぜだろうか。そして、この20doに関わることで、学生たちは何を学び、どのような成長を遂げているのだろうか。その真相を明かすべく、まずは20doの目的や活動内容を把握するため、本事業を展開する宮崎市商業労政課の職員にお話を伺った。その後、実際にそれぞれ違った角度から20doに携わったMMUの学生を取材した。

※ 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構『Glossary 高等教育に関する質保証関係用語集 4th Edition』（2016年）より。

教室だけが、学びの場じゃない！

一生に一度だからこそ、自らの手で。
経験をバネに、宮崎から世界に羽ばたきたい！

ケース2：木本 帆南さんの場合

2年 / 宮崎県出身



記者 実行委員長お疲れさまでした！一生に一度の成人式、いかがでしたか？
木本 自分で言うのもなんですが、大成功でした！：と思います（笑）。
記者 そもそも、なぜ成人式の実行委員長を引き受けることになったんでしょうか。
木本 中学の時、生徒会に入っていたので、その流れで依頼がありました。成人式のよいうな、日本特有の伝統的で文化的なイベントの実行委員長ができるなんて、今後の人生で絶対何かの役に立つと思い引き受けました。元々「大きなイベントの企画に携わりたい！」と思っていたこともあって、ちょどいいタイミングでした。
記者 今回の成人式では、20doアプリを利用したと聞きました。
木本 そうなんです。今回が初導入だったので前例がなく、本当にゼロからのスタートとなりちょっと大変でした。20doのことを知らない同級生も多かったので、と

宮崎市内で1月8日に実施された成人式では、20doアプリが活躍した。新成人はこのアプリを利用することで、簡単に欠連絡ができるほか、限定クーポンの取得や、式当日の写真を確認することもできるのだ。そんな20doの導入初年度に、宮崎市長目（いきめ）地区の成人式実行委員長を務めた本学2年の木本帆南さん。彼女は20doと成人式を通して、何を学んだのだろうか。

ケース1：藤島 由芽さんの場合

広告コミュニケーションゼミ / 4年 / 宮崎県出身



記者 20doFESでのMC、お疲れ様でした。とてもスムーズな進行でしたね。
藤島 ありがとうございます。そう言っていたら、頑張った甲斐があります。
記者 普通はなかなかこういった役を任されることってないと思うのですが、どのような流れでお声がかかったのでしょうか。
藤島 私は、ずっとアナウンサーを目指していたので、学生時代に少しでも経験を積んでおこうと思い、県内で開催される様々なイベントのMCにチャレンジしてきました。おかげで、イベント関連のお仕事をされている多くの方々と知り合うことができ、その繋がりから声をかけていただきました。
記者 なるほど。このMCを引き受ける前から20doという活動はご存知でしたか。
藤島 実はよく知りませんでした（笑）。しかし、依頼を引き受ける以上、この活動のことを理解しておかなければならないと思い、ちゃんと調べましたよ。宮崎の若者世代を中心に、様々な角度から宮崎を盛り上げようとしているこの活動は、宮崎の地で

1月8日にみやぎきアートセンターで開催されたYUMEZAKI FESTIVAL 20doの合同による成人式イベント「20doFES@MIYAZAKI」（以下、20doFES）のMCを務めた藤島由芽さん。彼女は、教室の外でどんな経験をして、どんな学びを得たのだろうか。

にかく知ってもらうことから始めました。Twitterに20doの動画を載せ、友達にどんな拡散してもらったんです。これが意外とうまくいって、なんとか情報を広めることができました。
記者 今回の経験を通して、何か得たことはありますか。
木本 企画・運営を最初から最後まで通して経験できたのは大きな収穫ですね。特に、実行委員のメンバー全員を委員長としてどうまとめて、どう動かしていくかといった点については結構悩んだし大変でした。でも、結果的には楽しみながらできたのでよかったと思います。あと、成人式当日に同級生と再会したり、20doのアプリで配信されている動画などを見たりすることで、地元宮崎の良さを発見・再確認でき、すごくよかったです。「宮崎も意外といいじゃん！」って（笑）。あ、それと出身中学校への愛も深まりましたよ（※）。
記者 得たものを、今後どう生かしていきたいですか。
木本 今回の経験を通して、自分がリーダーとして企画・運営するような仕事に就きたいと改めて考えるようになりました。海外に行ってデイズニーのアニメーターになって映画を作りたいとか、いずれは起業して自分の会社を持ちたいとか、叶えたい夢や目標がたくさんあります。
記者 すごくですね！木本さんの作った映画、是非見たいです（笑）。では最後に、先輩へのメッセージをどうぞ。
木本 MMUには、留学する人がたくさんいますが、国内で就職してしまう人が多くてもったいないなと思います。もっとワールドワイドな視点と夢を持って、海外に羽ばたいて欲しいです。私も頑張ります！

※ 宮崎市内の成人式は、出身中学校単位で開催されている。



学ぶ私たち学生にとっても、非常に心強いと思いました。今後、更にこの活動が浸透していくことで、宮崎の活性化に繋がればいいなと思います。
記者 特に今回のイベントは、若者真っ只中の新成人がターゲットのようでしたが、当日はどのような意識で臨まれましたか。
藤島 は、20doFESの実施目的は、宮崎生まれの新成人や若者世代に、自分の生まれ育ってきた土地に興味を持ってもらうこと。そして、自分自身のこれまでの生き方を振りかえるとともに、今後の生き方について考えてもらうことでした。そのため、一方的に伝えるのではなく、参加された皆さんに投げかけるような口調を意識し、会場全体を巻き込めるような心がけました。
記者 特に印象に残った点があれば教えてください。
藤島 株式会社リブセンスの遠藤センター長との対談でしょうか。遠藤さんには、仕事や人生の選択について、ご自身の経験談も交えつつお話しいただきました。その中で、自分のやりたいことをどう仕事に繋げ

ていくか、というお話がとても印象的でしたね。これから多くの選択を迫られるであろう新成人には、意味のこもったビジュアルの内容だったと思います。私もこれから社会に出ていくうえで、とても参考になるお話でした。
記者 ご自身の就職活動では、MC経験で得たものをアピールできましたか。
藤島 冒頭にもお話しした通り、私には大きな目標があつて、それを実現するためにMC活動をはじめ、様々な活動に挑戦してきました。そういった、物事に挑戦する姿勢という部分をアピールすることができたのではないかと思います。
記者 卒業後は宮崎で就職されるということですが、仕事以外で何か取り組みたい活動などありますか。
藤島 具体的なことは決まっていませんが、宮崎の魅力を発信していけるような活動ができればと考えています。でもまずは、宮崎を知ることからでしょうね。ずっと宮崎に住んでいるにも関わらず、知らないことが思いのほかたくさんあるんですよ。あと、今回20doに関わったことで、若者の宮崎県内就職率が非常に低いこともわかりましたので、その点についても、改善に繋がるような取組みができればいいと思います。
記者 最後に、後輩に向けてメッセージをお願いします。
藤島 学生のうちに何かやりたいことや目標を見つけて、その達成のために必要なことをとことんやってほしいと思います。それが人との繋がりを生み出したり、新たな目標を発見したりすることに必ず繋がっていくので、どんどん動いて、チャレンジして、後悔しないよう精一杯頑張ってください。

記事：甲斐 咲乃 / 3年

今後の活躍に期待！



吉田 可乃子さん
2年 / 宮崎県出身

『20do』の学生メンバーとして、活動を開始したばかり。

●メンバーに応募したきっかけ
「何か学生のうちにしかできないようなことをやってみたい！」と思っているときに、学内に貼ってあった20doのポスターとその学生メンバー募集の資料を見て、これは面白そうだなと思い、応募を決めました。

●参加した印象
普段の学校生活ではお話しする機会がない社会人の方々と楽しく意見交換ができ、とても雰囲気が良いと感じています。

●今後の意気込みについて
せっかく社会人の方に混ざっているんな事に挑戦できる機会なので、委縮せず自分の意見をしっかりと伝えられるように、そして、やると決めたなら最後まで責任を持って取り組みます。大学生活も折り返し地点なので、今だからこそできることに挑戦して、悔いのない大学生活にしたいと思っています。

記事：赤塚 千智 / 2年



世界へ漕ぎだせ！ 視界よしっ！

カナダのバンクーバーアイランド大学での留学体験をお話いただきました。



三 原 貫
Kan Mihara

● **みはら かん**／島根県平田高校出身。英語学ゼミ4年生。2015年9月から12月までカナダ・バンクーバーアイランド大学で公費派遣留学生として留学。その後、ワーキングホリデービザを利用して現地での就労を経験。現地の私立学校でTESOL(英語が母国語ではない人を対象とした英語教授法)プログラムを受講して資格を取得するなど、カナダに1年間滞在。

■「留学しよう」と思い立った経緯
1つは高校の英語教員になるという目標ができたことですね。新入生オリエンテーションで英語の教員免許が取得できることを知り、英語教員になるのであれば留学経験があった方がよいと考えました。

■英語はもともと得意だった？
中学生の時は1番苦手で嫌いな科目でした(笑)。高校入試の時に「このままだや英語のせいで志望校に合格できない」というくらい足を引っ張っていて。1年間ほど家庭教師にみっちり教えてもらって、ようやく人並みの点数になりました。転機は高3の時、A L Tの英語合宿プログラムに参加した際に、テストのためではないコミュニケーションツールとしての英語の楽しさを知りました。その頃から英語は得意科目になり、M M Uに進学できたのも英語の点数のおかげです。

■留学中のポジティブエピソード
バンクーバーアイランド大学(以下、V I U)での留学生クラスの同級生は、ドイツ人や中国人、アフリカ系フランス人、韓国人と多様でした。V I U修了後はインド人

■もう1つは、入学後すぐに入部したテニス部とバドミントン部で、留学から帰ってきた先輩たちと出会ったことですね。様々な異文化体験エピソードや流暢な英語を話す先輩たちがとてもかっこよく見えて。自分にとって「留学」という選択肢が一気に現実的になり、在学中にM M Uの公費派遣留学制度へ応募しようと決心しました。1年生の時は徹底的に遊びましたが、2年以降はボキャブラリーの増強など英語学習に力を入れ、入学当初は500点台だったTOEICのスコアを795点まで上げ、実用英語検定準1級を取得してから、目標としていた公費派遣留学に応募しました。

■辛い経験
それはもう数えきれないほどあります。僕はライティングには結構自信があったのですが、V I U留学直後のエッセイテストでF(不合格)を取ってしまいました。「文章はよいけれど流れや構成ができていない」というコメント付きで。M M Uを代表して留学しているのにFは洒落にならないなど。どこを修正すればいいのかわかりません。最終的には合格できました。

あと、今でも鮮明に記憶していますが、ファーストフード店の仕事を始めたばかりの頃に大失敗しました。当たり前のことですが、現地のお客さんは店員がどの国の人間だろうと手加減なしのスピードで話すので、注文が聞き取れない。あるお客さんが「レタス抜き」「マヨネーズ抜き」のカスタマイズでハンバーガーを注文したのですが、最初はレタスもマヨネーズも入れて提供してしまいました。お客さんから罵られ、次はレタスだけを抜いて提供し、さらに罵られて。非を認めてひたすら謝ったのですが、

■留学を目指す後輩に一言
「こうすれば正しい」というような留学の理想形など存在せず、それぞれのニーズに応じた様々な方法があると思います。僕自身、外国で生活して周囲に日本人がいない環境に身を置くことで、「日本人としてどう生きていくのか」ということを強く考えさせられました。そして、留学はゴールではなく将来の目標へのステップに過ぎません。自分の目標はどこにあるのかをしつかり考え、上でチャレンジすることをお勧めします。

■英語の面であれば、特にリスニングとスピーキングの能力が伸びて、帰国後に受験した実用英語検定1級に合格しました。また、様々な人種・国籍の人々とのコミュニケーションを重ねていく中で、多民族国家においてバイリンガルになることの重要性について考えるようになりました。それは、高校の英語教員という目標とも関連しています。これからのグローバル時代を生きる高校生に、単なる受験教科としての英語を超えて、人生の可能性や選択肢を広げるツールとしての英語を教えたい、外国語で交流できた時のシンプルな楽しさを教えたい、という信念のようなものが生まれました。

KYO-SHIP ~ MMU 教員の頭の中 ~ | Vol. 10 |

MMUの教員が、講義では垣間見られない「頭の中」を語ります。



教授 大賀 郁夫
Professor Ikuo Oga

自分の世界を持っていた、子ども時代

宮崎市の出身で、元々は今の市役所付近に住んでいました。今では考えられないですが、当時はあのあたりでもヤギを飼っているお宅があったんですよ。それくらい自然豊かだったので、小学校の頃はよく虫取りをしていました。でも、ひと夏中ずっと蟬取りに明け暮れていたかと思えば、その次の年は「もういいや」ってなっちゃう…宮崎弁で「やかんたぎり」って言うんですけど、熱しやすく冷めやすい子どもでした。それと、デパートの迷子のお知らせの常連さんでした(笑)。親と一緒に買い物に出かけても、おもちゃ売り場とか自分の興味がある場所にトコトコと行ってしまおうので、気付いたら親とはぐれていて。最終的には「迷子のお呼び出しを申し上げます…」って(笑)。今考えると、周りが見えなくなるくらい好きなことや興味があることに一直線な、自分の世界を持っていた子どもだったんだと思います。

継続で広がる世界

高校の歴史教員になるのが夢で、大学は文学部の史学科へ進学しました。勉強だけじゃつまらないと思って、1年生の夏に友人と四国一周野宿旅に出ました。愛媛の八幡浜から汽車とバスとでぐるっと一周したんです。駅や展望台など屋根のあるところに野宿するのですが、蚊が多くて大変でしたよ。

旅で印象に残っているのは、屋島の合戦の古戦場とか高知城とか…。やっぱり、歴史からは離れられなかったですね(笑)。

大学院進学は当初は考えていなかったのですが、私の卒業の年に歴史教員の募集がなく、地理で受けるも残念…。当時は大学院の修士課程を出れば教員免許1級がもらえたので、それを取ってからにしよう一旦進学することにしました。

大学院に進学することが決まっただけで、一番大変でした。大学院で研究を続けるには、自分で「古文書」が読めないと言えない話にならない。自分で言うのも恥ずかしいですが、ものすごく勉強しましたよ。でも、読めなかったものが、次第に読めるようになるのは、とても嬉しかったですね。その後は、修士と博士課程で8年、研究生で2年の計10年も大学院に在籍しました。一度浸かればどっぷりですから(笑)。そこで、研究室の先生からMMUの教員募集を紹介いただいて、今に至ります。その頃から、近世の宮崎を研究対象にしていますが、宮崎の歴史的文書の残存数は少なく、研究者も少ないんです。宮崎出身の研究者として、宮崎の歴史を解き明かしていくことに、使命感みたいな感覚をもっています。

MMU 今昔

開学2年目の平成6年にMMUに着任しました。その歓迎会の日に生まれ

た上の子が、今年大学を卒業するんです。22年、月日が経つのはあっという間ですね。私のゼミは、毎年11月の最終土曜日に、ゼミの同窓会をしているんです。人数がそこまで多くないので、皆に声をかけるのですが、毎年12〜3人ほど集まってくれます。卒業して社会人になってからも、こうやって帰ってきてくれる学生がいるのは嬉しいものです。

これからの学生には「想像力」を磨いてほしいと思っています。私の研究でも、ただ書いてある文字を追うだけではなく、そこから何が読み取れるのか、その裏では何が起こっていたのかと想像してみることが大切なんです。学生の皆さんなら、人生のシミュレーションをしてみるとかね。35歳までに海外勤務をするとか具体的に想像すると、それまでに何をすべきか、何をしていたら役立つかが見えてくるでしょう。偉そうに言っちゃいますけど、人生って「線」じゃないですよ。どんなにやっても伸びないとき、動けないときがあるんですけど、目標を持ってそれを頼りに進んでいけば、必ず辿り着く日がいつか来ますから。

想像力を持って、自分で考える力を養う場所。それこそが大学というところだと思いませんか。

● **おおが いくお**
専門は歴史学(日本近世史)。昭和35年生まれ九州大学文学部史学科国史学(現日本史学)専攻卒業、九州大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。平成6年より本学に着任。



北海道 から 宮崎 へ

河野 千鈴 さん

Chirin Kono
北海道 札幌手稲高校出身 1年生



リベラルアーツのカリキュラム。

文系の学問や英語に漠然とした興味があったものの、実は大学受験の時はまだ勉強したい内容が明確には決まっていませんでした。例えば教育に興味はあるけれど、「教師になる!」と断言できるまではいかないな、という感じで。語学だけではなく、人文学領域を1~2年次に全方位的に学んでから専攻を決定するMMUのカリキュラムを知り、自分に合うのではないかと思って進学を決めました。

はるばる宮崎に来てみて感じるのは、人の温かさですね。通

学中の信号待ちやコンビニなどの日常生活の中で、面識のないおじいちゃんやおばあちゃんや、とんとん話しかけてくるのはカルチャーショックでした。地元の北海道では、厳しい自然のせいか、知り合いになるまではあまり他人に気を許さない人が多いという印象があります。もちろん仲良くなればみんな人情豊かですよ(笑)。



専攻横断型の幅広いカリキュラム

MMUのリベラルアーツカリキュラムの特徴は、専門課程における3専攻の中で、他専攻の科目も履修しながら横断的に勉強できる点にあります。大学での学問は、学んでみて初めてその面白さがわかることも多いものです。専門性を

深めていく3年次までに、幅広い領域の講義を受けることができます。

■ MMU の専門課程 (3 専攻制)

言語文化

メディア・コミュニケーション

国際政治経済

専攻は2年の後期に選択します。



富山県 から 宮崎 へ

藤井 翔太 さん

Shota Fujii
富山県 福岡高校出身 3年生

学校の先生になる。

中学生の頃から、「将来は中学校の英語教員になりたい」と考えていました。大学受験時も、センター試験後に、「英語の教員免許が取得できる国公立大学」という条件で北海道から沖縄まで受験校を調べる中で、MMUを知りました。

入学後、学生ボランティアとして中学校と高校の現場を体験する



教員採用試験に向けた勉強会の様子

中で、高校教員により魅力を感じたので目標を変更することに。

いよいよ教員採用試験を目前に控え、現在は春休み期間ですが、毎日大学に来て勉強しています。所属している英語教育学ゼミでは英語の専門試験、教職支援室では教職教養の対策講座が行われています。予習をしっかりしなければついていけないので、講座のない日も演習室で勉強していますね。

あと4か月で試験を迎えるため、しっかりと対策を行い、夢を実現したいと思います。



驚異の教員採用試験合格率

MMUの教員志望の学生は、平成29年度57.1%、平成28年度53.9%という驚異的な現役合格者を誇ります(全国平均14.4%)。例年既卒生も教職支援室のサポートを受けながら諦めずにチャレンジし、英語教員になりたいという夢を実現しています。

教職支援室によるサポート

教員を目指す学生には、教職支援室が筆記・面接試験から模擬授業対策までフルサポート。全国の教員採用試験に対応します。



集団討論対策



福岡県 から 宮崎 へ

菰口 葵 さん

Aoi Komoguchi
福岡県 自由ヶ丘高校出身 2年生

充実した中国留学制度。

大学教員だった祖父の自宅にはいつも留学生が遊びに来ていて、幼少のころから外国や異文化に対する興味が自然と培われていたのだと思います。大学受験を考える時も、「語学にしっかり取り組んで留学できる大学」という基準で、いくつかの大学をピックアップしました。その際、高校の先生から「留学制度が充実している」ということでMMUを勧められたことがきっかけです。公立大学という学費面でのメリットに加え、留学機会の豊富さや、充実した経済支

援があることを知り、最終的に進学を決めました。

MMU入学後は、中国語に力を入れて勉強しています。さっそく1年生の春休みに中国蘇州大学で1か月間短期留学し、2年生の春休みには2度目の短期留学に行く予定です。次は1年間の長期留学を目指したいですね。



学術交流協定校の蘇州大学

沖縄県 から 宮崎 へ

知名 泰恵 さん

Yasue China
沖縄県 向陽高校出身 2年生



ゼミで本気で英語を学ぶ。

大学を選ぶ基準は「外国語を徹底的に勉強できるかどうか」でした。

3年生前期から始まる専門ゼミを選ぶ上で、将来の目標であるCA(キャビンアテンダント)の業務に必要なハイレベルな英語を身につけるため、厳しい指導が受けられる英語音声学ゼミを選びました。このゼミでは、3年生になる直前の春休みから、学生主体の自主ゼミがスタートします。平日から休日まで毎日演習室に集まり、午前中はボイストレーニングに英文テ

キストの要約と英語でのプレゼンテーション、午後はシャドーイングのトレーニングと検定試験の対策で、9時から17時まで勉強漬けです。7人の2年生を3人の先輩が指導してくれます。とてもハードですが、このゼミの先輩や同級生は、「本気で勉強する」と覚悟して入った人ばかりなので、モチベーションを高め合いながら、目の前の課題に臨むことができます。もちろん、サークルやアルバイトもこなしつつ、充実した毎日を送っています。



2度の中国1か月短期留学

1年次・2年次の長期休暇を利用して、学術交流協定校の1か月間留学に2回行けるチャンスがあります。「異文化実習I・II」という講義です。修了者には単位が付与されます。また、それぞれに渡航費の半額が助成されるほか、学術交流協定により研修費や宿泊費が安く抑えられるため、

低コストで留学することが可能です。

長期留学の充実した経済支援

半年~1年間の公費派遣留学では、留学先と本学の授業料の免除、留学生宿舍使用料の免除、生活費として助成金が月額4万円(※)支給されますので、僅かな自己負担ですっかり勉強に取り組むことができます。

※中国の場合



太陽と木々の声が聴こえる少女がテーマ！メイクも服もカーキとオレンジで統一してみました。

今日は雑誌の NYLON っぽく！ハッピーだけど棘のある雰囲気！革のパンツをスウェットで着崩してみました。

見てそのまま！緑ちゃん♡前日が幼いイメージだったので一気に大人っぽくイメチェン！全身母のお下がりです。

今日は中国語の授業を受けるのでチャイニーズシャツをトップスに！ゆめかわいい中国の少女がテーマ！

英国のやんちゃで人気者なスクールボーイがテーマ！勉強がんばるぞって気分の日！



Ayaka Mori
2年 / 鹿児島県出身
今どきのオシャレはできないけど、派手な組み合わせが好き！方向音痴でよく迷子になる。

Be a fashionista

高校生の皆さん、私服の通学って憧れますよね？毎日私服を選ぶのは大変だけど、それも大学生活の楽しみの一つだと思います。

さて、MMUの所在地である宮崎県は、海・山に囲まれており、鉄道網も発達していないことから、よく「陸の孤島」と称されています。そのため、都会から発信される様々な娯楽やサービスは、ここ宮崎まで届くのが極めて遅く、ファッションに関してもその例外ではありません。

しかし、そんな環境下にありながらも、MMUのファッション事情は一味違います！都会の学生にも劣らない、個性豊かでオシャレな学生が多く存在しています。

そこで今回、MMUのファッションista 3名に協力してもらい、1週間のコーディネートに迫りました。



お気に入りのカスケッドがポイントです！帽子をかぶると服がシンプルでも印象が変わるのでおすすめです。

東京へ旅行に行った時に買った古着のスカートがポイントです！スカートにあえてスニーカーを合わせてみました。

BLISS POINTのデニムワイドパンツはシルエットがとってもかわいい！Jouetieのコートは真っ白じゃないところが気に入ります。

最近買った大きいサイズのライダースとワンピースを合わせたのがポイントです！

ほとんど白！先の BLISS POINT の服でまとめています！カットオフのデニムと首元のパンダナがポイントです。

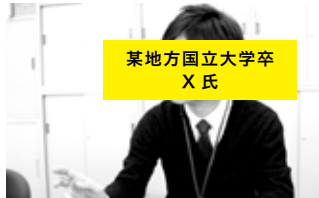


Jun Izumisawa
2年 / 宮崎県出身
シンプルなコーディネートの中に小物などで色を入れてアクセントをつけたファッションが好き。

特に誰も気にしてなさそうな MMU ファッションネタ

この企画の打ち合わせ中に、広報担当職員の方X氏がこう言いました。

MMUって、ジャージ率めちゃくちゃ低いよね。僕の通った大学とは大違いだよ！



X氏は、某地方国立大学在学中にMMUへ潜入したことがあるそう。そして、ジャージ率の低さとオシャレな学生が多いことに衝撃を受けたとか。しかし、我々学生記者にとっては、現状のMMUが普通だと思うわけで。さて、MMUのジャージ率（下記）を見て、読者の皆さんはどう思いますか？

調査対象人数の658名うち、ジャージ人数5名ジャージ率...

0.75%

※ 上下スウェット着用者も含む。



黒に統一してみました。レイヤードもポイントの一つです。

アウター on アウターのコーデです。コートの中にブルゾンを着ることによって、モード感を演出しました。

定番のコーデですが、白のソックスと革靴で上品さ取り入れてみました。

シンプルになりすぎないようにレザーの切り替えやアウター、ロングベルトで遊び心をプラスしました。

1日目で少々緊張しています。トップスと靴下の色を合わせてみました。



Yusei Ikenono
3年 / 社会心理学ゼミ / 鹿児島県出身
趣味は読書。
2月から英国に留学中。

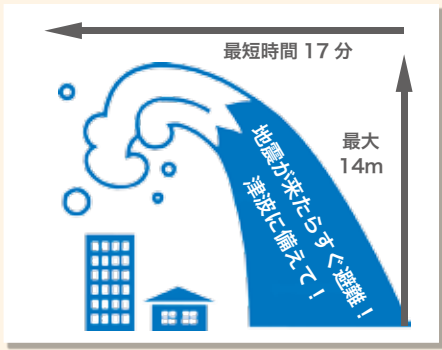
記事：甲斐 咲乃 / 3年、尾崎 穂波 / 2年、赤塚 千智 / 2年

1 休憩 × 気づき

道の駅を訪れた人の多くが目に見える入り口やトイレ、レストランに延岡市の津波・海拔情報を掲載する。その地域に住む人たちだけでなく、道の駅を訪れた方々にも津波の危険性に気づいてもらう。また、災害について、関心を持ってもらう。



延岡市ハザードマップ



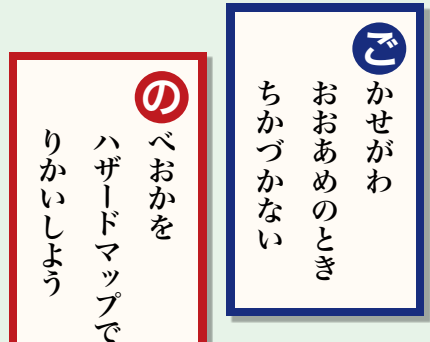
津波に関する情報の掲示

2 地域連携 × 育む

自治体と近隣の小中学校等の連携により、防災かるたを製作する。また、道の駅でそれらの大会等を開催することで、楽しみながら防災に関する知識を育んでもらうことができるほか、災害に備える大切さを認識してもらうことも可能。



道の駅で防災に関するイベントを開催



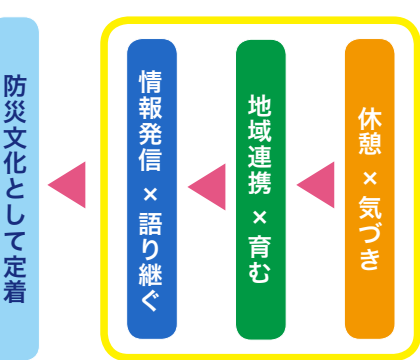
延岡防災かるた（案）

3 情報発信 × 語り継ぐ

過去に起こった災害や今後起こりうる災害に関する情報を展示する。観光情報など親しみやすい掲示物と並べて展示することで、災害について気軽に学んでもらう。そして、いざ災害が起こった際に、自分で考え、適切な行動ができるような知識を蓄えてもらう。



道の駅の活用とその効果に関するフロー図



具体的活用法の検討

では、具体的にどのような形で活用できるだろうか。私たちは、道の駅が持つ「3つの機能」に着目し、それら機能との連携（休憩Ⅱ気づき、地域連携Ⅱ育む、情報発信Ⅱ語り継ぐ）による防災情報の発信方法について検討した（詳細は上記）。なお、宮崎県内には、現在17か所の道の駅が存在しているが、今回は延岡市にある道の駅「北川はゆま」をモデルとして選定した。選定にあたっては、①東九州自動車道の開通により県北の道の駅利用者数が増加していること。②延岡市は県北に位置し、昨年の夏、台風による記録的な大雨で川が氾濫し、住宅や車が浸水する被害が起きていること。③延岡市は南海トラフ等の巨大地震が起きた際に、津波の危険性があること。という3点を考慮した。

なお、左図に示すように、本来持つ機能と、防災機能をリンクさせ継続的に活用していくことで、道の駅が防災を学ぶ場として広く認識され、地域・利用者の防災知識が向上し、それが文化として根付いていく。

いく場、つまり防災について学ぶ場として、効果的に活用できるのではないだろうか。

道の駅を選ぶ理由とは？

道の駅は、国土交通省が定める「3つの機能」を備えている。1つ目は休憩機能（24時間無料で使える駐車場、トイレ）、2つ目は地域連携機能（文化教養施設、観光レクリエーションなどの地域振興施設）、3つ目は情報発信機能（道路情報、観光情報、緊急医療情報）である。なお、これらに加えて、災害時には防災機能の役割を担う必要があり、さらに近年ではそのニーズが確実に高まっていると思われる。また、平常時には、観光客や長距離トラックの運転手、地域住民など多くの人たちが日々利用する施設であることから、防災に関する様々な情報を常時発信して

災害から身を守るために

災害はいつ何が起こるか分からない。今日では、これまでの災害経験から、各自治体等において、避難所の整備やハザードマップ等の作成・公表が進められており、地域住民にも備蓄や避難経路を確認することの大切さが認識され始めている。公的施設の掲示物やホームページ等において、居住地域の避難所等を確認されたことがある方も多いのではないだろうか。しかしながら、災害が発生し、いざ避難しようとした時に、避難所が被災して利用できなくなるなど、想定外の状況が生じることも十分に考えられる。宮崎県でも、日向灘沖地震や台風などが発生した際、多くの被害が予想される。私たちは、そのような状況に遭遇した場合にも適切な対応ができるよう普段から防災について学び、少しでも多くの知識を持つことが重要である。そこで私たちは、防災について学ぶ場として「道の駅」の活用を提案する。

進化する防災 ～道の駅で防災文化を定着～



広告コミュニケーションゼミ presents
学生独自の発想力・視点から、新しい宮崎の魅せ方を提案する



道の駅「北川はゆま」

INDEX

PICKUP NEWS

2016 ■ November

- 6日 「保護者説明会」及び「保護者のための就職ガイダンス」を開催
- 11日 学生選書ツアーを実施
- 26日 シンポジウム「みやぎきイメージとは何か」を開催（梅津准教授・倉准教授・森津准教授）

■ December

- 17日 「故 林 弘子学長 宮崎公立大学葬」を举行
- 20日 FD研修会を開催

2017 ■ January

- 26日 公開研究発表会（大賀教授・辻教授・森部准教授・梅津准教授・倉准教授・森津准教授）を開催
- 28日 小学6年生向けの英語講座「Step up to junior high school」を開催（2月19日までの全4回の実施）

■ February

- 4日 楠田助教による自主講座「戦争文学／映画を読む」を開催
- 11日 卒業論文発表会を開催（14日までの4日間）
- 20日 フォーラム「在来野菜の活用と展望」を開催（永松教授）

■ March

- 24日 平成28年度卒業式を举行

1/16 推薦入試Ⅱを新設し、募集を開始しました。

MMUでは平成29年度入試から、推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す推薦入試）の区分を新設いたしました。

管内枠 10名	募集人数 20名
全国枠 10名	

1/23 インターネット出願を開始しました。

MMUでは平成29年度入試から、一般選抜入試（前期・後期）に限り、インターネットを利用した出願が可能となりました。

インターネット出願では、紙の願書請求が不要となり、検定料の支払いにコンビニエンスストアやクレジットカードが利用できます。



訃報

林弘子学長（任期：平成25年4月～平成29年3月）が、平成28年11月21日に逝去されました。ここに謹んで、林学長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



編集後記

学生記者紹介

今号も最後までお読みいただきありがとうございました！

実は私、MMU-SHiP 創刊5年目にし、初めて広報誌の取材・編集をさせていただきました。読む側から作る側に変身(?)して初めてのこの号を通して、「読物」を作り出すとはいかに大変かを実感しました。本や雑誌の制作に携わる皆さまへ、尊敬の念を禁じ得ません。

そんな生みの苦しみを味わいつつ作られた今号は、今までの10冊ともまた違う、新しい「初めて」の宮崎やMMUの姿をたくさん発見していただける1冊になっていると自負しています。来年度（H29年度）からは、年1回の発行となる本誌ですが、その分、ギュッと1年分の魅力を詰めた1冊に出来ればと思っています。次の号までの間も、学生記者と我々職員はネタ集めや記事制作に奔走しておりますので、ぜひとも忘れ去らないでくださいね（笑）。

さあ、次はどのような「初めて」をお届けできるでしょうか？次号も新たな「初めて」に、楽しさや発見をのせて、MMUから出航したいと思っています。ぜひとも、楽しみにお待ちください！担当：平井 美幸（企画総務課企画係）

今回学生記者をしたことによって、今まで何気なく読んでいたMMU-SHiPが、こんなに時間をかけて、多くの人の協力によって作られたものだったんだな～と、実感することができました。記事を読んで面白いなと思ってくられると嬉しいですよ！

赤塚 千智（2年）

尾崎 穂波（2年）

甲斐 咲乃（3年）
Intercultural
Communication ゼミ



実際に外に出て取材をしたり、インタビューをしながら「私、記者してるな～」と実感することができ、ワクワクしました。今後に繋がるとても良い経験になったと思います。読者の皆様には、温かい目で記事をお読みいただけると幸いです。

とても貴重な体験をさせていただきました。市役所の方へのインタビューは、緊張しましたがとても勉強になりました！大好きなファッションに関する特集もでき、満足です。読者の皆様に、楽しんで読んでいただけたら嬉しいです。



写真向かって左手から、比嘉 美咲さん（1年・沖縄県向陽高校出身）、樺木 真理さん（4年・鹿児島県種子島高校出身）、黒木 葉月 さん（3年・宮崎県日向高校出身）

留学経験を学生間でシェアする機会を作りたいと思い、私がニュージーランドのワイカト大学に1年間公費留学する直前に、「留学情報交換会」を発足させました。帰国後に活動を再開したところ、後輩の黒木さん（3年生）と比嘉さん（1年生）が興味を持ってくれ、平成28年後期からは3人を中心に留学相談イベントの企画や運営を行ってきました。

平成28年12月に学生食堂で開催した海外フェアでは、公費留学（NZ・カナダ・中国・韓国）や国費留学（イギリス・中国）、私費留学（カナダ）、日本語パートナーズ（マレーシア）、ピースボートの経験者が協力してくれて、約50名

の学生が相談に来てくれました。

平成29年からは、さらに大学オフィシャルプログラムの異文化実習についても、先輩が後輩にアドバイスを行う機会を作りました。

MMUは小規模校でありながら、在学中に留学する学生がとても多く、その国や方法も多様です。世界各地で貴重な経験を積んできた学生たちと、これから留学を考えている学生が交わる機会を創出することによって、後輩たちが改めて留学する目的や方法を考え、迷っていた挑戦に対して前向きな姿勢になれる。私は3月で卒業しますが、これからも、そんなきっかけを作り続けていくことができればと思います。



学生食堂で開催された「海外フェア」では、様々な海外渡航を経験した先輩のブースにたくさんの相談者が訪れ、食事をしながら体験談に耳を傾けていました。

連続リレーエッセイ いいだしっぺ 執筆 > 中山 本文 教授（英米文学ゼミ）

人生は夢！？

「人生は夢でできている」と言ったのはシェークスピア。現実が夢なのか、夢が現実なのか。確たるものはどこにもない。ましてや、永続するものなどどこにもない。歴史劇・喜劇で劇作家人生を歩きはじめ、悲劇を書き、そして作家人生の晩年になって、悲喜劇を書いた偉大な劇作家の万感の思いがそこにはある。

結婚して3人の娘たちに恵まれた。私が親としても教員としても新米だった時、最初の子供が生まれた。それぞれ子どもたちは這い這いから、よちよち歩きになり、だんだん大きくなった。幼稚園に行き、そして小学校へと進んだ。子育ての最初のころは大変だった。疲れて帰ってきて、風呂、食事を済ませて一息ついて、やっと眠りについてる時、夜泣きに眠りを妨げられた。訳もなく泣いている（そう思えた）子供に腹が立った。寝不足で眠気眼のまま仕事に行くという日が、ある時期つづいた。不思議なことに、どういう訳か、最初の子供の夜泣きしか覚えていない。2番目・3番目の子供たちが夜

泣きしなかったはずはない。ひよっとしたら、私が親として成長していたのかもしれない。子どもたちが学齢期になった時の夢。「早く起きなさい。学校に行く時間よ。」と家内の声。夢と現実の境目をさまよいながら、しぶしぶ起きてくる子供たち。いつもの朝のいつもの一場面。こうして、いつの間にか子供たちは大きくなった。その子供たちが、小学校と幼稚園に行っている時、在外研究で1年近く、家族一緒にイギリスに滞在した。3人が通う小学校は、大学のすぐ近くにあった。毎朝、一緒に出掛け、帰りは学校に迎えに行った。夕暮れのバス停で、途中で買ってきた「トッフィー」を頬張りながら、一緒にバスを待って時を過ごした。娘たちはそれぞれに学校での出来事を話してくれた。その子供たちも中学校、高校と卒業して行き、大学へ進学した。この時期の夢の中で一番の夢は、長女が公立大に入ってきて、私の担当する「比較文学」と「英米文学」を受講してくれたこと。授業中、夢中になって語っている時、ふと娘に向かって語っている自分に気付くことが何度かあった。教員と親が交互に行き

来していた。講義は受講してくれたが、さすがにゼミには入ってこなかった。あれからずいぶん時が経った。もはや、子どもたちを起こす家内の声は聞こえてこない。気が付くと家の中に子供たちの姿はない。みんなどこに行った？夢を見ていた？時々娘たちから電話がかかってくる。この時だけ一瞬、現実が遠くからやってくる。そしてまた夢の中に遠ざかっていく。

「人生は歩く影法師」と言ったのはマクベス。かつてはこの言葉の表面しか理解していなかったような気がする。最近、この台詞が内容を伴ってきた。



● なかやま もとふみ／昭和26年佐賀県生まれ。北九州大学（現北九州市立大学）外国語学部米英学科卒業、熊本大学大学院文学研究科英文学専攻。母校の佐賀県立厳木高校、北九州工業高等専門学校の英語教員を経て平成6年より現職。

経験は、 未来の自分の 糧になる。

MMUからCAへ

宮崎出身なので、親から「大学までは宮崎に居てほしい」と言われていたのもあり、県内で出来れば国公立にと考えてMMUを選びました。元々興味があったメディア系の科目が充実していることも大学選びのポイントでした。所属していたジャーナリズム論ゼミでは、毎週の課題で800字作文を書いていました。先生から「雨」のような簡単なテーマを出され、30分で書きあげます。最初は上手く書けませんでした。が、毎週続けるうちに何のテーマでも難なく書けるようになりました。課題の成果として、就職活動の書類選考で落ちたことが1度もないのは、今でも私のプチ自慢です(笑)。

実は客室乗務員(以下、CA)を目指し始めたのもゼミの友人がきっかけで、元々アナウンサーを目指していたのですが、小さい頃からCA志望だった友人と話していた時に「CAならアナウンスできるよ」と言われてハッ!として(笑)。そこで視野が広がり、航空業界で働くことを考えるようになりました。元々アナウンサーを目指したのも、「伝える」ことが好きだというのが根底にあります。なので、訓練生時代の機内アナウンス(以下、PA)の授業では、やる気がありすぎて毎回最初に当てられていて、同期には未だに「堂園!!PA大好き人間」と言われています(笑)。今でも、大型機の乗務で500名のお客さまを前にアナウンスをする瞬間を一番楽しみにしています。

現在の仕事への想いと今後の目標

最初に入社したJALエクスプレス(以下、JEX。2014年10月1日をもってJALに合併)では、1つのフライトを3~4名のCAで行うため、JEXのカラーであった「安心、カジュアル、フレッシュ」のとおり、小型機の特徴を生かしたアットホームな機内づくりも魅力でした。

JALとの合併後は大型機材や国際線への

乗務など、環境が大きく変わりました。しかし、大きな会社ですが、年齢や勤務年数によらず一社員の意見もきちんと汲み取って動いてくれる風通しのいい社風なので、とても働きやすいと感じています。以前から、「地元宮崎やアナウンスに関する仕事にも関わりたい」と思っていたところ、昨年、JALの新しいJAPAN PROJECTの一環で開催された宮崎のイベントにMCとして参加することができました。これも社員それぞれの想いを大切にしてくれる社風があってこそだと感謝しています。夢が1つ叶った瞬間だったので嬉しすぎて、すぐ母に「宮崎のイベントでMCすることになったつやが!!」と宮崎弁全開で電話してしまいました。

普段の業務では、JALフィロソフィ(※)の中の「常に明るく前向きに」という言葉を大切にしています。常に明るく前向きな気持ちを持つことで、仲間やお客さまにも幸せな気持ちで飛行機に乗って頂くことに繋がると思っています。「雰囲気がいい機内だね」とお客さまがおっしゃった時には、この言葉の想いが通じたのだと嬉しくなります。お客さまにも、一緒に働く仲間にも笑顔が広がる機内となるよう、これからもこの言葉と共にフライトに臨みたいのです。(※JALグループの全社員が持つべき意識・価値観・考え方をまとめたもの)

今後の目標の1つとして、Boeing737型機

での客室責任者の資格取得があります。この機材は、大好きな地元への路線を飛ぶ飛行機です。いつも私の成長を心から喜び、支えてくれる大切な家族や友人のいる宮崎へ、客室の責任者として乗務するのが夢です。

後輩へのメッセージ

私は、経験してきたことで無駄なことは一つもないと思っています。小学校の時に放送部でアナウンスをしたことがPA好きに繋がっていたり、大学の軽音楽部でオリジナル曲を作ったライブをしたことがフライトの際の達成感と似ているなど感じたり、アルバイトを3つ掛け持ったことが幅広い年齢層のお客さまと接する仕事に生きていたり…。どんな経験にも意味があって、やってきたからこそ今の仕事に繋がっていると思います。大学生という時間を有意義に使って、ぜひたくさん経験をしてください。

日本航空株式会社

1951(昭和26)年8月創立。

定期航空運送事業及び不定期航空運送事業、航空機使用事業およびその他附帯する又は関連する一切の事業を行う。

■従業員数 12,244名(連結 31,986名)(2016年3月31日現在)

日本航空株式会社
堂園 実華 さん
どうぞの みか

平成24年度卒業生
ジャーナリズム論ゼミ(当時)

